

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は明治40年に設立され、今年で創立115年を迎える工業高校である。33,000名に及ぶ卒業生は産業界や自治体など様々な分野で活躍し、産業社会の発展に大きく貢献している。

これまで幅広い分野で産業社会を支える人材を輩出してきた本校は、今後も「大阪No.1の工業高校」として経済社会の様々な情勢の変化に対応し、職業人として必要な力を身につけた人材を育成するとともに、社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を担っている。

これらをふまえ、本校では次の項目をめざす学校像として掲げ、その実現に向けた教育活動を実践するものである。

- 1 Society 5.0で実現する社会に必要な、即戦力となる技術者・科学者を育成する。
- 2 全学科から進学できる工業高校として、高大7年間を見据えた継続的な学びを行う。
- 3 ICT-Literacyの習得を重点に学科・教科間のネットワークを充実するとともに、全学科の知識・技術を総合的に活用することができる工業高校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1)新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」において、知識の理解の質を高めることで確かな学力を身につけ、職業人として必要とされる人材を育成する。

ア 「Society5.0」で実現する社会を担うための力、国際社会を生き抜く力の育成に向け、ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践することで学びに対する意欲・学力を向上させる。

イ すべての教育活動を通じ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門的な知識・技術の定着をはかるとともに、多様な課題に対応するための課題解決能力を育成する。

(2)生徒が、基礎的・基本的な知識や技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の興味・関心等に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うことにより、個に応じた指導の充実をはかる。

ア 生徒の自己実現に向け、少人数授業や習熟度別授業、グループ学習を展開するとともに、授業内容の改善により理解度、満足度を向上させる。

イ 工業科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験にチャレンジすることはもとより、職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的について探究する。また、実用英語能力検定など知識・技能審査にもチャレンジすることで4技能5領域にわたる総合的な語学力を習得する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1)学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながらたくましく生きる力をはぐくむために必要な、基盤となる資質・能力を身につけることができるよう、基本的な生活習慣を確立させ、社会のルールを理解させる。

ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行い、「時間を守る」「身だしなみを整える」「集団としてのルールを遵守する」ことを通じて道徳心や規範意識を醸成する。

イ 合同LHRを活用し、交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心を育み、自他を大切にするとマナーを守る態度を育てる。

(2)他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係の構築に向けたコミュニケーション能力、多様性を受け入れる力などを育むための人権教育を推進し、人権尊重のための知識や態度を養う。

ア 自分自身はもとより、人との関わり、集団や社会との関わりに関する道徳的価値についての理解を基に、様々な体験や思索の機会等を通して人としての在り方生き方について考えを深めさせる。

イ 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育てるため、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を徹底し、技術者倫理を醸成する。

(3)卒業後の社会的・職業的自立や自分らしい生き方を実現する中で社会貢献できるよう、キャリア教育の充実をはかるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。

ア 企業や大学の見学をはじめ、外部講師による講演会・説明会（進学・企業就職・公務員）などを通じ、進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める。

イ 実力テストの結果や過去の大学入試データなどに基づき、各教科と連携した定期的な進学補講を行う。

ウ キャリアパスポートにおいて自己のキャリア形成はもとより、Society5.0・SDGsに関する内容にも触れ、情報化やグローバル化、地球環境などに対する意識付けをはかる。

エ 生徒会活動を活性化し、部活動を推進することによって生徒一人ひとりの自主性・社会性をはぐくむとともに、心身の健康や体力の保持増進をはかる。

3 専門的な知識・技術の定着

(1)各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して自ら学ぶ意欲を高めるとともに、様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。

(2)興味関心の増加をはじめ、将来に向け最も重要である進路決定につなげるため、社会において必要な専門資格試験や検定に積極的にチャレンジし、合格率を高めるとともに、ジュニアマイスター顕彰受表彰者を増加させる。

4 学校の組織力向上

(1)総合募集への移行をふまえ、将来計画委員会を通じて総合募集をはじめ、さらなる魅力化について検討を進める。

(2)同窓会などとの連携による教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる。

(3)長時間勤務の縮減に向けた取組みや在校等時間管理・健康管理を行うとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、「働き方改革」に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>令和4年度に府に移管し、府の様式による学校教育自己診断アンケートを今年度初めて実施した。各質問での「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計結果(%)は以下のとおりである。</p> <p>【生徒】</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」 81%</p> <p>「学校生活についての先生の指導は納得できる」 71%</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」 92%</p> <p>「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 87%</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」 66%</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 89%</p> <p>「体育祭(文化祭・修学旅行)は楽しく行えるよう工夫されている」</p> <p>体育祭 85% 文化祭 91% 修学旅行 86%</p> <p>「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」 77%</p> <p>【保護者】</p> <p>「学校に行くのを楽しみにしている」 87%</p> <p>「授業がわかりやすく楽しいと言っている」 72%</p> <p>「学校の生徒指導の方針に共感できる」 80%</p> <p>「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 92%</p> <p>「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 87%</p> <p>「子どもの生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」 90%</p> <p>「教育情報について、提供の努力をしている」 91%</p> <p>「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 89%</p> <p>【教職員】</p> <p>「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 95%</p> <p>「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 85%</p> <p>「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」 80%</p> <p>「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 96%</p> <p>「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」 93%</p> <p>「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」 86%</p> <p>「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」 89%</p> <p>「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 95%</p> <p>アンケート結果により、本校の教育活動に対して生徒・保護者の評価は概ね肯定的であった。</p> <p>生徒では特に「進路や生き方について考える機会」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」「文化祭は楽しく行えるよう工夫」が高評価であったが、「気軽に相談することができる先生がいる」「先生の指導は納得できる」についてやや低い評価であった。</p> <p>保護者においては「進路や職業などについて適切な指導」「教育情報について、提供の努力」「生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養う」「授業参観や学校行事に参加した」に高い評価をいただいた。全教職員での進路指導や進路実績、日々の指導が評価されていると考える。また本校ホームページの毎日の更新や授業参観、体育祭・文化祭の一般公開など開かれた学校づくりに取り組んでいることが評価されていると考える。「授業がわかりやすく楽しいと言っている」がやや低い評価になっており、真摯に受け止め、改善していく必要がある。</p> <p>教職員については、全教職員で教科指導、生徒指導に取り組んでいることがわかる。「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」が他よりやや低い評価であった。生徒の「気軽に相談できる先生がいる」の評価と関連し、次年度の教育相談体制を新たに構築する必要がある。</p> <p>今後、全教職員で生徒1人1台端末を効果的に活用しわかりやすく楽しい授業を実践するとともに、カウンセリングマインドを持ったよりきめ細やかな指導に取り組んでいく。</p>	<p>第1回 (6月8日)</p> <p>○府に移管された経緯について説明</p> <p>○令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全委員の賛成を得られた。 ・本家で学校経営に取り組んでいく。 <p>○スクールミッション案の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、委員のご意見を頂戴する。 <p>○令和4年度年間行事予定について</p> <p>○令和3年度進路状況について</p> <p>第2回 (11月9日)</p> <p>○令和4年度学校経営計画及び学校評価の中間評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICT機器の活用を授業ではしていると思うが、アンケートにも活用しているか」 → 「アンケートにもchromebookを活用し、集計している」 ・「総合募集制はどのようになるのか」 → 「本校は機械・機械電気科、建築・都市工学科が総合募集になっている。他の工科高校のように全クラス総合募集にしている場合もある。全国的な流れで、中学3年生の時点で希望学科を決めるのが難しいという中学校の先生や塾の先生の意見があり、入学してから科に分かれるほうが良く、不本意入学を無くすメリットがある。メリット・デメリットがある。」 ・「都島工業高校は大学入試において、情報科目で受験する生徒はいるか?」 → 「情報学部や情報学科に進学している生徒は多数いる。」 ・「情報の教員不足が言われている。都島工業高校の生徒は有利ではないか。受験できるところまで行っていれば都島工業高校の強みである。」 ・「総合募集の長所・短所がわかってきたが、都島工業高校は特別であり、他の工科高校と同じように考えてはいけない。大阪公立大学は入試を前期と中期にしたが、合格者の成績順位や偏差値は入学してからの成績と関係はない。入試の成績が良いからといっても、入ってから良い成績にはならない。それよりもモチベーションの高い学生の成績がよく、モチベーションが重要である。総合募集について都島工業高校にふさわしい方向を考えてほしい。」 → 「本校にあった総合募集になるよう大阪府教育庁と協議していく。」 <p>○令和5年度スクールミッション(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクールミッションの「社会の様々な情勢の変化に対応し」は学校が、「技術者・科学者として必要な力を身につけ」は生徒が、「将来の大阪の産業界を牽引するリーダーを育成する」は教員がと主語が統一されていないので主語が学校となるよう修正した方がよい。」 → 「修正する。」 <p>○令和4年度現在の進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍により求人の中身に変化がありましたか」 → 「変化はない。2次応募の求人が増えてありがたい状況である。」 <p>第3回 (3月22日実施)</p> <p>○令和4年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見・自己評価を追加した。 ・「学校教育自己診断の結果と分析について、カウンセリングマインドを持ったよりきめ細やかな指導に取り組んでいくため令和5年度より教育相談主担を新たに任命するということですが、主担の先生は各学科ごとに配置するのですか。」 → 「学校全体で1名です。府では教育相談体制の組織をつくることになっている。支援コーディネーターとは別に教育相談の主担者をおいて組織的に不登校や学校に足の向かない生徒をフォローアップしていきたい。」 ・「全ての授業においてICT機器を用いた検証・考察の時間を1/4限以上設定するよう努めた。」とあるが、具体的にどのように使用したか、一例を挙げたほうがわかりやすいように思う。また、すでに実施しているかもしれないが、宿題・課題の提出にICTを使用しペーパーレス化を目指すことも進めていただきたい。」 ・全委員の承認を得た。 <p>○令和5年度スクールミッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校運営協議会でご指摘の文言修正をし、府教委に提出した。 ・全委員の承認を得た。 ・これを受けてスクールポリシー案を作成し平成5年6月の第1回学校運営協議会でお示ししたい。 <p>○令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の評価を受け、ブラッシュアップした案である。基本的に令和4年度を踏襲している。3年後に向けた数値目標を追加している。 ・「生徒が安全安心して教育に向き合える環境は非常に重要である。南海トラフ地震の発生リスクが叫ばれる中で、貴校においても安全対策は万全であると思うが、より良い対策を地域一帯となって考えるために、大阪公立大学都市科学・防災研究センターとの連携も一案として検討していただければ幸いです。」 ・全委員の承認を得た。 <p>○令和4年度現在の進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進学的人数で、まだ何人の生徒が確定していないのですか。」 → 「18名が確定していません。本命の大学の確定待ちも含まれています。」

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R3年度値〕	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践し、学びに対する意欲・学力を向上させる	(1) ア 今年度から全員に貸与される chromebook をはじめ、スマート専門高校予算で整備される新たな設備を効果的に活用し、座学に実習や体験的学習の要素を取り入れる。そのことを通じて学んだ理論を、生徒自身が主体的に検証・考察する探究学習をとおして興味関心を高める	(1) ア 全ての授業において検証・考察するための時間を1/4限以上設定する。また、授業における ICT 機器の活用率を30%以上とし、授業アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答を30%以上とする [新規]	(1) ア 全ての授業において ICT 機器を用いた検証・考察の時間を1/4限以上設定するよう努めた。授業アンケートの結果、「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用しているか」の質問に対して「よくあてはまる」38.4%、「ややあてはまる」38.8%であった。また、「授業において ICT 機器を活用しているか」の質問に対しては、「よくあてはまる」36.4%、「ややあてはまる」44.7%であった (◎)
	イ 課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門的な知識・技術の定着をはかる	イ 工業技術基礎・実習・課題研究をとおしてPBLを実践する。これにより発見した課題について、解決策を見出すためのディスカッションを行う過程でヒントを与え、生徒同士で議論を深めさせる。そうすることで思考力・判断力・表現力を養うとともに、研究の成果をまとめ、発表することでプレゼンテーション力を向上させる	イ 学年・学科ごとにPBL発表会を開催し、研究成果を共有する。3年生の課題研究発表会では1・2年生が見学する機会を設け、次年度以降に取組む自身の研究内容についてイメージさせる。また、1・2年生が回答するアンケートにおいて、「3年生の研究内容にかかる評価」を60点以上とする [新規]	イ 各学科で3年生課題研究発表会を1月下旬から2月にかけて実施した。見学した1・2年生には次年度以降の取組みに大いに役立った。1・2年生へのアンケートの結果、「3年生の研究内容にかかる評価」は83点であった。(◎)
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ	(2) ア 習熟度別学習・グループ学習を展開し、積極的かつ協同的に学ぶことを通じて理解度、満足度を向上させる	(2) ア 各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、問題を提起し、グループ学習を中心としたアクティブ・ラーニングを実践することで互いに教え合う雰囲気形成する。それらを通じて積極的に学びに向かう態度を育成し、授業の理解度、満足度を向上させる	(2) ア 授業アンケートにおいて、「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」とする回答を70%以上とする [新規]	(2) ア 授業アンケートにおいて「グループ学習や自ら調べて考える学習、課題を発見し協働して取り組む学習などの授業において、授業内容がよく理解できたか」の質問に対して「よくあてはまる」29.2%、「ややあてはまる」52.7%であった。(◎)
	イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに、職業資格を制度化している目的について探究する	イ PBL 学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得するための目的を明確化させるとともに、自己のキャリアイメージを具体化し、資格取得に向けた強い志を養う。その結果、高度な資格にもチャレンジすることでめざす職種、めざす学部を意識した進路選択を実現する	イ 職業に必須である高度な資格として、第三種電気主任技術者3名以上、測量士補30名以上の合格者を輩出する。一方、進学において国公立大学、工業高等専門学校、難関私立大学への進学率を15%以上とする [新規]	イ 第三種電気主任技術者(上期)3名合格(電気電子工学科2名、機械電気科1名)測量士補は2年8名、3年11名の計19名国公立・関関同立・産近甲龍・工業高等専門学校への進学率は32%(○)
	(1) ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行うことで道徳心や規範意識を醸成する	(1) ア 登校時の遅刻指導や身だしなみ指導、スマートフォンの校内使用規定に関する指導を行い、時間を守る、身だしなみを整えるなど、集団でのルールを遵守することの意義や必要性について繰り返し指導する。そうすることで社会の中で協同し、力強く生き抜くための基礎となる道徳心や規範意識を醸成する	(1) ア 粘り強く繰り返し指導することにより、遅刻等が常態化する生徒を20名以下に減少させる [遅刻10回以上24人]	(1) ア 昨年度に比べ遅刻総数は増加したが1日平均は変わらない。常態化している生徒への指導を強化したが、遅刻10回以上の生徒は30名となり、昨年より増加した。その半数は3年生であった。(△)
	イ 合同LHRを活用し、自他を大切にするとマナーを守る態度を育む	イ 合同LHRを活用して交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心をはぐくみ、自他を大切にするとマナーを守る態度を育てる	イ 講演会後のアンケートにおいて、「自身の健康はもとより、自他の安心安全について改めて考えるよい機会になった」との回答が80%を超えるよう、講演内容を充実させる [78%]	イ 各学年において交通安全講話を実施した。事後アンケートにおいて肯定的意見が1年94%、2年90%、3年88%といずれも注意喚起に繋がっていると考えられる。11月には3年生対象の薬物乱用防止啓発講座を実施し肯定的意見88%とこちらも啓発に繋がったと考える。2月に1・2年生対象の消費者被害防止啓発講座を実施し、肯定的意見2年95%、1年95%であった。成人年齢18歳が間近とあり、非常に興味深く受講していた。(◎)
	(2) ア 様々な体験や思索の機会等を通し、人としての在り方生き方について考えを深めさせる	(2) ア 全ての教育活動をとおして人権教育を推進することはもとより、学年ごとにテーマを設定した人権学習会、外部講師を招聘した人権講演会を開催し、人としての在り方生き方について考えさせる。1年生には人権担当が、2年生には教頭が、3年生には校長がそれぞれ人権学習会を行う	(2) ア 学年別学習会、外部講師による講演会後のアンケートにおいて「人権に関する考えがより深まった」という回答を70%以上にする [新規]	(2) ア 1年生対象にスマホ・ケータイ安全教室を実施した。アンケートにおいて「スマホ・ケータイを安全に利用しようと思った」という回答は98.6%であった。12月の人権週間には人権学習として全学年にアニメ「めぐみ」を視聴させた。アンケートにおいて「人権について考えることができた」という回答は97%であった

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ</p>	<p>イ 様々な情報を正しく安全に利用するための知識・スキルの習得に向け、情報モラル教育を徹底する</p>	<p>イ 成年年齢の引き下げに伴う消費者責任をはじめ、政治や社会への積極的な参画に向け、関係教科・HRでの指導、外部講師による情報モラル講演会を実施し、情報モラルの向上をはかる</p>	<p>イ 授業アンケートにおいて「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」との質問に対し、「できる」との回答を90%以上にする [新規]</p>	<p>(◎)</p> <p>イ 授業アンケートにおいて「スマートフォンやインターネットなどの情報を取り扱う際に、危険を回避し責任ある行動をとることができる。」の回答は95%であった。(◎)</p>
	<p>(3) ア 進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める</p>	<p>(3) ア・公共職業安定所や大学・専門学校と連携し、各学年を対象にキャリア教育に関する講演会・説明会を開催する ・講演会等を活用することで早期の段階から進路に関する意識を高めさせ、就職希望者の内定率を高い水準で維持する</p>	<p>(3) ア・進路に関する講演会・説明会を年3回以上行う 〔1学年1回、2学年1回、3学年1回〕 ・就職内定率を100%にすることはもちろん、一次内定率を90%以上とする 〔就職内定率100%、一次内定率89.6%〕</p>	<p>(3) ア・キャリア教育講演会を、1学年1回、2学年1回、3学年1回実施した(○) ・就職内定率は100%、一次内定率は92.1%(○)</p>
	<p>イ 進学希望者に対して定期的な進学補講を行うことにより、進学率を向上させる</p>	<p>イ・高専編入学希望者一人ひとりに応じた学習計画を立案し、数学や英語などの教科と連携しながら編入学試験対策補講を実施する ・進学補習を通じて例年50名が進学する大阪工業大学の過去問に取組み、合格者数を増加させる ・知識・技能審査の一つである実用英語技能検定等の資格取得を奨励し、対策講習の実施を通して合格者を増加させる</p>	<p>イ・特色ある進路選択の一つである工業高等専門学校への編入学試験合格率を70%以上にする [70%] ・大阪工業大学の専門高校特別推薦入試において、80%以上の合格者数を維持する [84%] ・英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を30%以上にする [29%]</p>	<p>イ・工業高等専門学校への編入学試験の合格率は75%(6人/8人)であった(○) ・大阪工業大学の専門高校特別推薦入試合格率は84%(○) ・英検合格者は、2級6名、準2級35名で20%(受験者数合計2級66名 準2級136名)である。(△)</p>
	<p>ウ キャリアパスポートにおいて自己のキャリア形成をはじめ、地球規模での課題である環境にも意識をめぐらせる</p>	<p>ウ・キャリアパスポート・ノートを通じてSociety5.0の時代に生きる人材としての役割、AIの果たすべき役割等について学習させ、情報化に対する意識、興味・関心を高める</p>	<p>ウ キャリアパスポートをもとに面談を行い、情報社会の重要性に対する認知度を70%以上にする [新規]</p>	<p>ウ 生徒にアンケートを実施した結果、情報機器を利用して進路に関する情報を収集している割合は、3年生75%、2年生50%、1年生35%であった。3年生以外にも情報機器を用いた進路に関する情報収集を啓発していく必要がある(△)</p>
	<p>エ 生徒会活動の一層の充実と部活動のさらなる活性化により帰属意識や自治意識を高めるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する</p>	<p>エ・生徒議会、朝の挨拶運動、都工祭(体育祭・文化祭)を通して生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、生徒主体の学校行事をつくり上げる ・スポーツや文化、科学等に親しむことで学習意欲、体力、技能を向上させ、責任感、連帯感の涵養等につなげるため、部活動をより活性化することに取り組む</p>	<p>エ・生徒議会を10回開催し、生徒の意見を集約・実践することで開かれた学校づくりを行う [10回] ・部活動加入率を70%とする [70%] ・全部活動の入賞を30回以上とし、勝つことの喜びをはじめ、連帯感や責任感の醸成につなげる [新規]</p>	<p>エ・生徒議会を10回実施(○) ・部活動加入率72%(○) ・入賞回数28回(△)</p>

<p>3 専門的な知識・技術の定着</p>	<p>(1) 各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して様々な職業や年代などつながりをもちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う</p>	<p>(1) ・「レスキューロボットコンテスト」に参加し、災害救助に関する取り組みを通じて技術を学ぶだけでなく、協同し、災害に強い社会を創生するという共通課題の解決をめざす ・建築設計競技にチャレンジすることで専門的知識を向上させるとともに、コンペで認められるための資料づくり・プレゼンテーション技術の向上をはかる ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）にチャレンジし、現在の建築技術をはじめ、伝統工法による技術・技能を継承する ・「ものづくりコンテスト（測量部門）」にチャレンジし、外業とデータ処理を通じて測量スキルを向上させるとともに、国家資格である測量士補試験に合格し、技術系公務員としてのキャリアにつなげる ・「コンクリートカーナー競技大会」「橋梁模型コンテスト」などものづくり系競技大会に出場し、勝つことの喜びを通して学びに対する意欲を向上させる ・工業6学科ごとの先輩講座やOB進路懇談会を開催し、技術者としての在り方や進路選択の方法について学ばせる</p>	<p>(1) ・レスキューロボットコンテストの本選出場を果たす [リモートによる本選出場] ・建築設計競技での入賞、ものづくりコンテスト（木材加工部門）近畿大会上位入賞を果たす [建築設計競技に5名が入賞] ・ものづくり系の大会において、入賞を果たす [ものづくりコンテスト（測量部門）5位] [コンクリートカーナー競技大会 中止] [橋梁模型コンテスト 入賞せず] ・各学科で先輩講座を1回以上開催する。受講後にグループディスカッションを行い、技術者としてのあり方について考えさせ、それに関するレポートを提出させる [新規]</p>	<p>(1) ・本選出場は出来なかったが、主催者側から見学に来た子どもたちに近くで体験できる実演デモの依頼があり協力した（△） ・3年生2名がものづくり大学高校生設計競技において佳作で入選を果たした。その他、3年生が取り組んだ工高生デザインコンクール、大阪府公共建築設計コンクール、2年生が取り組んだ中央工学校高校生対象コンペは入選できなかった。（△） ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）は、近畿大会に3名出場し、9位入賞を果たした（○） ・ものづくりコンテスト（測量部門）は4位で入賞ならず（△） ・コンクリートカーナー競技大会では総合ならびに発表、デザイン、競争の各部門で2位に入賞した（○） ・橋梁模型コンテストは3橋出展したが、入賞にはいたらなかった（△） ・各学科で先輩講座を1回実施した。グループディスカッションにおいて様々な意見交換を行い有意義な時間となった。その内容をレポートで提出させた（○）</p>
	<p>(2) 各学科で専門資格試験にチャレンジし、合格率を高めるとともに職業と資格の関連を理解させ、明確な進路意識を確立する</p>	<p>(2) 各学科で以下の資格試験に取組み、学ぶ意識の向上につなげるとともに、ジュニアマイスター顕彰受表彰者を50名以上輩出する ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 ・技能検定機械検査機械検査作業3級 ・機械保全技能検定機械系保全作業3級 ・機械製図検定 ・2級建築施工管理技士補 ・建築大工技能士 ・建築CAD検定 ・測量士補 ・2級土木施工管理技士補 ・第三種電気主任技術者 ・第一種電気工事士 ・第二種電気工事士 ・基本情報技術者 ・ITパスポート ・危険物取扱者（乙種第4類）</p>	<p>(2) 各資格検定等の合格率を次のとおりとする ・ジュニアマイスター顕彰 計50名以上 [新規] ・普通旋盤作業3級 50%以上 [50%] ・機械検査作業3級 70%以上 [97%] ・機械保全技能検定3級 70%以上 [100%] ・機械製図検定 70%以上 [29%] ・2級建築施工管理技士補 40%以上 [40%] ・建築大工技能士3級 80%以上 [75%] ・建築大工技能士2級 2名以上 [3名] ・建築CAD検定3級 60%以上 [82%] ・建築CAD検定2級 40%以上 [79%] ・測量士補 25%以上 [20.7%] ・2級土木施工管理技士補 85%以上 [95.2%]] ・第三種電気主任技術者 3名以上 [2名、全国高校生合格者ランキング第4位] ・第一種電気工事士 60%以上 [53%] ・第二種電気工事士 70%以上 [58%] ・基本情報技術者 3名以上 [5名] ・ITパスポート 20名以上 [22名] ・危険物乙種第4類 40%以上 [15%] (全国合格率32~45%)</p>	<p>(2) ・ジュニアマイスター顕彰 96名 (◎) ・普通旋盤作業3級 75% (◎) ・機械検査作業3級 91% (○) ・機械保全技能検定3級 100% (○) ・機械製図検定 57% (△) ・2級建築施工管理技士補 41% (○) ・建築大工技能士3級 87% (○) ・建築大工技能士2級 5名 (○) ・建築CAD検定3級 93% (◎) ・建築CAD検定2級 72% (○) ・測量士補 25% (○) ・2級土木施工管理技士補 87% (○) ・第三種電気主任技術者（上期）3名 (◎) [上期・全国高校生合格者ランキング第1位] ・第一種電気工事士 75% (◎) ・第二種電気工事士 62% (△) ・基本情報技術者 2名 (△) ・ITパスポート 10名 (△) ・危険物乙種第4類 23% (△)</p>

府立都島工業高等学校

4 学校の組織力向上	<p>(1)本校独自の教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる</p> <p>(2)将来計画員会を通じて総合募集をはじめ、さらなる魅力化について検討を進める</p> <p>(3)教職員の働き方改革を推進する</p>	<p>(1)本校同窓会「一般社団法人浪速工業会」との連携による「教員のための技術講習会」を行う。また、教員間の学習会・授業見学を積極的に行い、意見交換を通じて自己研鑽に努める</p> <p>(2)将来計画委員会を毎月開催し、総合募集をふまえた学科の在り方をはじめ、工業技術基礎における指導内容、実習の展開方法について検討を行う</p> <p>(3)教職員一人ひとりが校務に対する取り組み方について見直すことで毎月2回の定時退庁日を各自で設定し、実践する</p>	<p>(1)各学科で年1回、本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を開催する [新規]</p> <p>(2)今後の学科の在り方について検討し、工業技術基礎における指導内容や実習の展開方法について決定する [新規]</p> <p>(3)時間外勤務月80時間以上の職員を10%以下にする [8.9%]</p>	<p>(1)工業6科でそれぞれの科に応じた技術講習会を開催した。教員の技術向上の一助になった (○)</p> <p>(2)工業6科において現在、検討中である。今後各科の意見を取りまとめ、学校としての方向を決定していく (△)</p> <p>(3)4月から12月までの月80時間以上の教職員は124名おり、124名/9か月=13.8名 13.8名/教職員105名=13.1%である。 中間評価の14.4%から1.3%減少したが目標を達成できなかった。(△)</p>
---------------	---	--	---	---